

橋の魅力、発信マップ

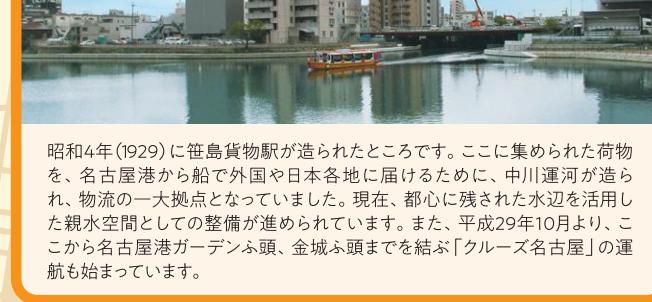
中川運河

発行:中川区役所地域推進室 名古屋市中川区高畠一丁目223番地 TEL:052-363-4322

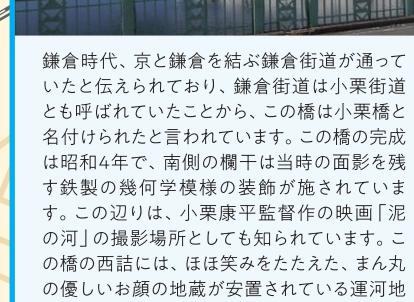
協力:NPO法人伊勢湾フォーラム

中川運河の歴史

中川運河は、名古屋港と旧国鉄笹島貨物駅との間の貨物輸送と、江戸時代の初期から名古屋の物流の大動脈となっていた堀川との相互通行を図るため、上流部は篠瀬川、下流部は中川と呼ばれていた曲がりくねった川幅の狭い浅い川を、真っ直ぐに広く深く掘って造られ、昭和7年に全線が開通しました。この運河には、水位を調節して船が通過できるように、中川口と松重に閘門(通船門)が造されました。また、運河の開削に伴う大量の土砂で沿岸を埋め立て、工場や倉庫を誘致したことにより、沿岸は名古屋市南西部の発展の拠点となりました。以後、中川運河は「東洋一大運河」と称され、名古屋港と都心を結ぶ水運による一大輸送幹線としての役割を果たすとともに、市中心部の排水機能や広大な水面を有することから都心部のヒートアイランドを緩和する施設として市民生活を支えることになりました。しかし、昭和40年代に入ると、道路網の充実や名古屋港の接岸岸壁の整備、貨物のコンテナ輸送化など港湾貨物の輸送形態の変化により、水運による貨物輸送はトラック輸送へと転換し、昭和39年に一日約200隻を数えた船舶航行も、現在では、一日数隻程度となっています。一方、運河の穏やかで広大な水面を利用して、水上スポーツや芸術活動が行われるようになり、また、貴重な水辺景観を活用して飲食店が立地しているほか、クルーズ船が就航するなど、中川運河は新たな役割を果たしつつあります。



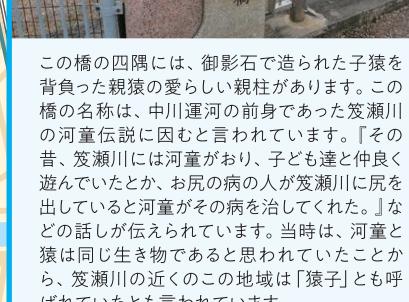
昭和4年(1929)に笹島貨物駅が造られたところです。ここに集められた荷物を、名古屋港から船で外国や日本各地に届けるために、中川運河が造られ、物流的一大拠点となっていました。現在、都心に残された水辺を活用した親水空間としての整備が進められています。また、平成29年10月より、ここから名古屋港ガーデンふ頭、金城ふ頭までを結ぶ「クルーズ名古屋」の運航も始まっています。



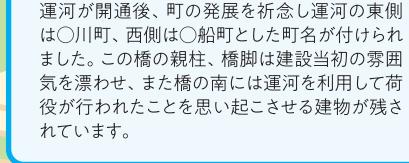
鎌倉時代、京と鎌倉を結ぶ鎌倉街道が通っていたと伝えられており、鎌倉街道は小栗街道とも呼ばれていたことから、この橋は小栗橋と名付けられたと言われています。この橋の完成は昭和4年で、南側の欄干は当時の面影を残す鉄製の幾何学模様の装飾が施されています。この辺りは、小栗康平監督作の映画「泥の河」の撮影場所としても知られています。この橋の西詰には、ほほ笑みをたたえた、丸丸の優しいお顔の地蔵が安置されている運河地蔵堂があります。この辺りは水死者が多く、その靈を慰めるために地元の人たちの浄財により昭和10年この地蔵堂が建立されました。橋の北東側「露橋水処理センター」は「広見憩いの杜」を整備し、平成31年4月からプロムナードを歩いて中川運河を感じることができます。また、橋の南西側運河沿いに並ぶ「岡谷銅機」倉庫群が、昭和初期の姿に再建され、この橋は注目の写真スポットとなっています。



中川運河の北端、大須通に架かる橋。港区南端に架かる橋は「中川橋」で、「中川運河」の名が南端と北端の橋の名になっています。



この橋の四隅には、御影石で造られた子猿を背負った親猿の愛らしい親柱があります。この橋の名称は、中川運河の前身であった篠瀬川の河童伝説に因むと言われています。「その昔、篠瀬川には河童があり、子ども達と仲良く遊んでいたとか、お尻の病の人が篠瀬川に尻を出していると河童がその病を治してくれた。」などの話しが伝えられています。当時は、河童と猿は同じ生き物であると思われていたことから、篠瀬川の近くのこの地域は「猿子」とも呼ばれていたとも言われています。



長良橋は、江戸時代に東海道(宮の宿と桑名宿を結ぶ海路・七里の渡し)のバイパスとして賑わった佐屋街道に架かる橋です。佐屋街道は、徳川家光が上洛する際に整備されたと言われており、明治維新の年には明治天皇が京都と東京を往復する際にも使われています。橋の親柱には籠を担いだ江戸時代の風景が描かれ、橋の東詰めには、「明治元年西京へ御還幸ノ際御小休アリシ所ナリ」と刻まれた「明治天皇御駐蹕之所(ごちゅうひつのところ)」の碑が残されています。



八熊の地名は、五女子町の八剣社と二女子町の熊野神社がその由来と言われています。橋の東側の地名は富川町、西側は富船町で、中川運河が開通後、町の発展を祈念し運河の東側は○川町、西側は○船町とした町名が付けられました。この橋の親柱、橋脚は建設当初の雰囲気を漂わせ、また橋の南には運河を利用して荷役が行われたことを思い起こさせる建物が残されています。



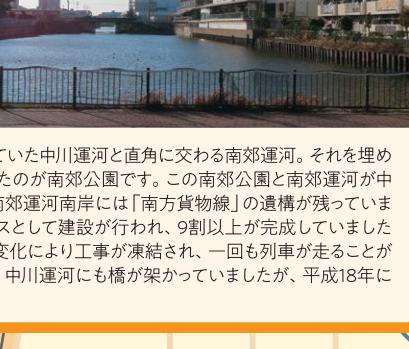
昭和4年に完成したこの橋は、何度かの改築が行われていますが、建設当時のものと思われる親柱や橋脚、橋台が残されています。



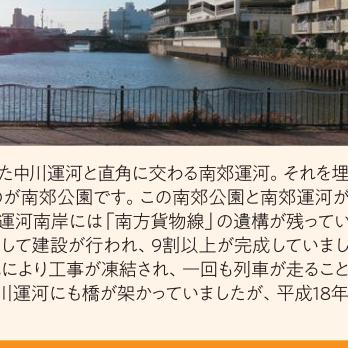
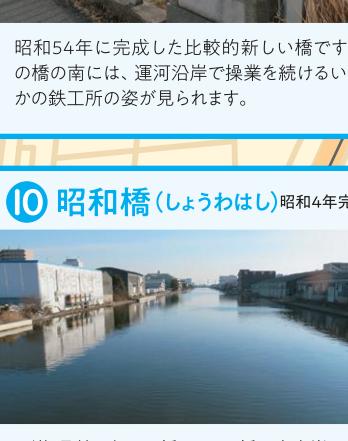
昭和54年に完成した比較的新しい橋です。この橋の南には、運河沿岸で操業を続けるいくつかの鉄工所の姿が見られます。



国道1号線に架かる橋で、この橋の南東岸には中川運河が活躍していた頃を偲ばせる二連のカマボコ型倉庫や運河に突き出したクレーンが残る工場などがあります。この橋から南側を望む景色は真っ直ぐに延びる中川運河を感じることができ、天気のいい日は名古屋港シートレインランドの大観覧車が運河の先に見えます。



かつては熱田区まで伸びていた中川運河と直角に交わる南郊運河。それを埋め立て、昭和57年整備されたのが南郊公園です。この南郊公園と南郊運河が中川区の南端になります。南郊運河南岸には「南方貨物線」の遺構が残っています。東海道本線のバイパスとして建設が行われ、9割以上が完成していましたが、その後の社会情勢の変化により工事が凍結され、一回も列車が走ることがなかった幻の貨物線です。中川運河にも橋が架かっていましたが、平成18年に撤去されました。



N